

安全性要約書

グリセリンモノ脂肪酸エステル

この安全性要約書は、一般社会へ化学物質の用途・用法、安全性情報の概要を提供するものです。この文書は、用途毎に推奨される詳細な安全措置について記載されている安全データシート (Safety Data Sheet) に代わる文書として作成されたものではありません。また、この物質を含む消費者製品の使用説明書や警告に代わるものとして作成されたものでもありません。記載内容は、現時点で入手できる法令、資料、情報、データに基づいておりますが、いかなる保証をなすものでもありません。

1. 物質の特定

カテゴリー名: グリセリンモノ脂肪酸エステル

化学物質名: グリセリン脂肪酸 (C8, 10, 18, 18:1, 22) エステル

CAS 番号: 26402-26-6, 26402-22-2, 31566-31-1, 123-94-4, 25496-72-4, 111-03-5, 30233-64-8

2. 使用・用途と適用

グリセリンモノ脂肪酸エステルは、グリセリンと脂肪酸を脱水縮合させることにより製造される非イオン性界面活性剤です。安定化・乳化・保湿の目的で化粧品に広く配合されるほか、食品の乳化剤としても利用されています。

産業用途ではプラスチック添加剤、潤滑油などに利用されています。

3. 物理化学的特性

グリセリンモノ脂肪酸エステルの代表的構造としてカプリル酸 (C8) グリセリド、ステアリン酸 (C18) グリセリドの物理化学的特性について、米国環境保護庁のコンピュータソフトウェア EPI suite 4.11 を用いて計算した結果を以下に示します。

グリセリンモノ脂肪酸エステル の物理化学的特性

項目	代表構造	
	カプリル酸 (C8) グリセリド	ステアリン酸 (C18) グリセリド
分子量	218.3	358.57
沸点 (°C)	331.72	448.36
融点 (°C)	84.79	166.17
蒸気圧 (Pa) 25°C	3.11×10^{-4}	1.70×10^{-7}
水溶解度 (µg/L)20°C	1229	1.23×10^{-2}
分配係数 (LogKow)	1.71	6.62
土壌吸着係数 (LogKoc)	10 (MCI) 注) 10 (Kow)	1066 (MCI) 4993 (Kow)

注) MCI : Molecular Connectivity Index (分子構造に基づく定量的な記述子)

4. ヒト健康影響

消費者: グリセリンモノ脂肪酸エステル の危険な濃度レベルでの曝露はありません。

作業者: 入手可能なデータから、グリセリンモノ脂肪酸エステル の取り扱いに伴う短期および繰り返し曝露による毒性は示さないと考えられます。

アセスメント項目	結果
急性毒性：経口/経皮	實際上、経口/経皮曝露後の毒性はありません。単回曝露後に、特定の臓器に対して毒性を示すこともありません。
刺激性/腐食性：皮膚/眼	入手可能なデータから、皮膚および眼に対する腐食性、刺激性は無いと考えられます。
感作性	入手可能なデータから、皮膚感作性はないと考えられます。
繰り返し曝露による毒性	入手可能なデータから、長期または繰り返しの経口暴露により毒性を示さないと考えられます。
遺伝毒性	入手可能なデータから、遺伝毒性はないと考えられます。
発がん性	入手可能なデータから、発がん性はないと考えられます。
生殖発生毒性	入手可能なデータから、生殖発生毒性はないと考えられます。

5. 環境影響

魚類、水生無脊椎動物、藻類に対する試験結果から、グリセリンモノ脂肪酸エステル は水生生物に対し毒性は示さないと考えられます。また、容易に生分解されるため、環境中には残留しないと考えられます。食物連鎖における濃縮もありません。

アセスメント項目	結果
水生毒性	水生生物に対して毒性は示さないと考えられます。
生分解性	容易に生分解されます。
PBT / vPvB	PBT/vPvBには該当しません。

6. 曝露

消費者

消費者は化粧品などの使用によりグリセリンモノ脂肪酸エステルに接触する可能性があります。これらの用途におけるグリセリンモノ脂肪酸エステルの濃度は懸念されるレベル以下です。推奨される用途で使用される場合、消費者に対するリスクはありません。しかしながら常に使用前に製品情報を参照し、ラベルや能書に記載されている使用上の注意に従ってください。

作業者

グリセリンモノ脂肪酸エステルの生産設備や多くの取り扱い設備では、この物質による曝露が発生します。また、この物質を取り扱うメンテナンス、サンプリング、テストや他の作業においても曝露される場合があります。教育を受け訓練された作業者のみが、（希釈されていない）この物質を取扱います。各製造設備では、不必要な曝露を避けるためにゴーグルや手袋などの安全防具の設置と共に、作業者向けの訓練プログラムや適切な作業手順を定めています。安全シャワーや眼を洗う設備が設置されています。作業者は**Safety Data Sheet**に記載されている応急措置に従う訓練を受けることが求められます。

環境

この物質は広範囲にわたり使用されているため、消費者用製品の使用に伴う排出と同様、製造、準備・取扱い・貯蔵、配合など工業的に取り扱う場所からも排水処理施設へ排出されます。しかしながら、この物質は容易に生分解されるため、排水処理施設において効率的に取り除かれます。排水中にわずかに残った場合でも、表層水中で生分解を受け、迅速に取り除かれます。従って、長期に渡る水生生物への曝露は起こり得ないと考えられます。さらにこの物質は食物連鎖において濃縮されないため、環境経由のヒトへの曝露は懸念されません。

7. 推奨リスク管理措置

グリセリンモノ脂肪酸エステルの生産設備や多くの取り扱い設備においてこの物質を使用する際には、適切な換気がなされていることを確認して下さい。手の皮膚などの保護のために適切な耐化学薬品手袋を常に着用し、眼の保護具を装着し、取り扱い後は手を洗ってください。この物質の取扱い、処理、保管をする場所では、飲食・喫煙をしないで下さい。衣類に付着した場合、汚染された衣類を脱いでください。皮膚（または髪）に付着した場合、多量の水と石鹸で洗ってください。皮膚刺激が生じた場合、医師の診断／手当てを受けてください。眼に入った場合は、水で数分間注意深く洗い、またコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けて下さい。眼の刺激が続く場合は直ちに医師に連絡して下さい。

この物質を含む排水は、この物質を除去するため、排水処理設備を通さなければなりません。大気中への放出は予想されないため特別な措置は必要ないと考えます。

8. 法規制情報/分類・ラベル情報

GHS に基づき、化学物質はその物理特性、ヒト健康、環境への危険有害性に従って分類されています。この危険性の情報は、工業製品では、特定のラベルと **Safety Data Sheet** によって伝達されます。GHS では化学物質が曝露される対象者（作業者、消費者、輸送業者、緊急時の対応者）が、扱う化学物質の危険性をより理解ができるように努めています。

グリセリンモノ脂肪酸エステルには GHS 分類は付与されません

製造、販売、輸送、使用、廃棄に関わる法令は、国や地域によって異なります。詳細についてはサプライヤーから提供される**Safety Data Sheet**を参照して下さい。

9. 結論

グリセリンモノ脂肪酸エステルは、水生生物に対する毒性は示さないと考えられます。PBT/vPvBの評価結果から、この物質はPBT/vPvBには該当していません。グリセリンモノ脂肪酸エステルの短期および繰り返し曝露による毒性は示さないと考えられますが、作業者は標準的な安全管理手法に従い、**Safety Data Sheet**を参照する必要があります。消費者はこの物質原体そのものには接触せず、希釈された状態で使用され、危険な濃度レベルでの曝露はないことから、使用上のリスクは低いと考えられます。

10. 連絡先

この物質や安全性要約書に関する詳しい情報については、以下の URL による「お問い合わせ（ケミカル製品）」をご利用ください。

会社名	花王株式会社
URL	https://ssl.kao.com/jp/chemical/

11. 用語集

急性毒性	単回曝露による有害な影響
感作性	アレルギー誘発性
遺伝毒性	遺伝子・染色体に変異をもたらす影響
発がん性	がんを引き起こす作用影響
生殖発生毒性	催奇形性、胚毒性及び、繁殖性への有害な影響
生分解性	環境における物質の生物学的分解性
PBT (Persistent, Bioaccumulative and Toxic)	残留性・蓄積性・毒性を有する物質
vPvB (Very Persistent and Very Bioaccumulative)	高残留性・高蓄積性を有する物質
GHS	化学品の分類と表示に関する国際調和

12. 発行日

2025 年 11 月 4 日